

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム春光	評価実施年月日	平成20年 10月 6日
評価実施構成員氏名	天谷 ・ 上西 ・ 岡本 ・ 幸村 ・ 大谷 ・ 渡辺 ・ 辻野		
記録者氏名	天谷	記録年月日	平成20年 12月 27日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営理念、ケア理念ともに職員間の目標として作りあげている	地域住民として暮らしを継続できるように理念にうたっている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、運営理念、ケア理念を声を出して読み、実践に向けて取り組んでいる(寝たい人は寝る。起きたい人は起きる。散歩に行きたい人には付き添い出掛ける等)	職員全員が理念を共有し、目標として日々のケアに臨んでいる。理念は入居者、職員の身近なところに掲示している
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念に基づいてケアし地域の方、家族の方に運営推進会議に参加していただき、理解していただけるよう努めている	運営推進会議を通じて、地域のたくさんの人に入居者の方の気持ちを伝えていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会に入会させていただいている。回覧板の受け渡しを入居者と一緒に行ったり、町内の方々からウエスを届けてくれたりと、交流が増えている	散歩や外気浴中、近隣の方と会った時は積極的に挨拶をしていきたい。馴染みの関係になっている方もいらっしゃる
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会より、行事の案内をいただき、可能な限り参加するよう努めている	今後も、出来る限り参加できるよう努めていきたい
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	入居者の状態や職員の退職、就職など、ホームでの余裕がなく具体的な活動が出来ていないが、運営推進会議を通じて、何かお手伝いできることがないか提案させていただいている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自分たちの反省点、改善点をみだし、職員それぞれが目標につなげられるようにしている</p>	<p>一定の期間だけでなく、年間を通じて自己評価を意識していきたい</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>町内の方々の意見や助言を参考にさせていただいている</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の方は、運営推進会議には基本的には参加されていないため、何かあれば電話で相談させていただいている</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在必要な方はいらっしゃらないが、必要な入居者、ご家族には説明できるように取り組みたい</p>	<p>研修会や勉強会に参加し、理解を深めたい</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体的、精神的に「虐待をしない」という理解はしている。</p>	<p>いろんな意味で「慣れる」ことで、言葉遣いが悪くならないよう職員間で注意している</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>そのように努め、実行している</p>	<p>入居待機をする時点でも、説明をさせていただきようにしている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	認知症症状もあり、不満や意見をうまく表現できない方が多いため、対話や様子を見て、ご家族に相談させて頂いている		ご家族来訪時には、自室やデイルームなどで、話しやすいように配慮している
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の状況は、その都度電話や来訪時、毎月のおたよりにてに報告、金銭管理は毎月1回報告させていただいている		平成20年11月より、ホームだよりに替わり、個別のおたよりに写真を掲載し、毎月郵送している
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	特に機会には設けてないが、意見など話しかけやすい雰囲気づくりに努めている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々伝えられる意見、提案に出来るだけ答えられるよう努めている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	代表、職員間と話し合いを行い、出来る限り調整している		入居者の状態に対応するため、調理、入浴に人員を多く配置している
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今のところ、職員の離職等は少なく、移動はない。		退職する場合は、「栄転」など、入居者が寂しい気持ちにならないような伝え方に努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>その時期にあった研修をうけられるように配慮している。同グループ内のグループホーム同士での研修会や、同グループの医療法人での研修会にも参加している</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センターが中心となって、同業者との交流や勉強会の機会をもうけてくれており、それに参加させていただいている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員が相談、助言をうけやすいよういつでも環境を整えている。年に数回、職員が交流できるよう行事をもうけている。毎週火曜日は、同グループ系列の職員が参加できる、エクササイズを開催している</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>毎月把握している。また、人事考課を行っている</p>	<p>職員も資格取得等、向上心をもって仕事に取り組んでいきたい</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前までに、本人にお会いし、話しあいをさせていただいている。不安を少しでも取り除けるよう配慮している</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前までに、ご家族にお会いし、話しあいをさせていただいている。不安を少しでも取り除けるよう配慮している。グループホームの説明、料金も合わせて繰り返し説明することが多い</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容により、グループホーム以外のサービスも説明させていただいている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来るかぎり、その方や家族の状況に合わせた対応を心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中でその方の得意分野がある時は声をかけ、助言を受けるようにしたり、内容に共感しながら、会話へとつなげていけるようにしている		日常の会話の中でも、本人が話したい内容の話題に触れたり、助言を求めたりするようにしている
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、いつもさまざまな場面で一緒に支援していただき、助けていただいている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	その時々々の状況に応じ、良い関係が継続できるよう、ご家族と相談しながら支援させていただいている		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出の場合はご家族に協力していただいている。来訪時は気兼ねなく過ごせるよう配慮している。毎日電話で話されている方もいらっしゃる		今後も本人、ご家族の要望の理解に努め、相互が安心できる生活が送れるように努力していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	その時々の入居者の状況に合わせ、席替えをしたり距離をおけるようにするなど工夫している。他者との交流が難しい入居者が孤立しないよう職員が支援している。入居者同士が気遣い、支えあえる関係づくりに配慮している		入居以来2年以上他者との交流が難しかった方が、ご家族の理解、協力を得て、今年より食事などデイルームで他者らと席を並べることが出来るようになる。今後も状況をみながら対応していく
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去時には、いつでも相談にのる旨を伝え協力体制をとっている		昨年は、入院のため退去された方よりグループホームを探しているとの相談を受け、支援を行っている
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に、センター方式のアセスメントにて、本人、ご家族より情報を収集している。入居後は、日常の会話の中から収集するように努めている。困難な場合は、ご家族と相談させていただいている		他者のまえでの会話を苦手とする方には、自室、入浴など落ち着いて話せる状況での対話を心がける
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、センター方式のアセスメントにて、本人、ご家族より情報を収集している。入居後は、日常の会話の中や行動などから収集するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人のそのときの状況に応じ、ペースに合わせて一人一人の生活を支援するよう努めている		その方の出来る「力」を職員全員が把握し、統一したケアにつなげている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	その時の本人の状態、状況の対応できるよう、ご家族、主治医等と話あったり、ミーティングで評価し、意見を総合し作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のモニタリング、定期的な評価をおこなっている。変化のある場合は、ミーティングで介護方針の見直しをおこなっている		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の記入、毎日の引継ぎ、定例ミーティング等で情報を共有し、プランの見直しに活かしている		昨年5月職員の意見を総合し、個別記録、支援経過の様式を、書きやすく、分かりやすいように変更している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や往診への支援などその時々々の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者の必要性に応じて対応していきたい。現在は行方不明になった時に協力をえられるように、その可能性が高い方についてご家族の了承を得て、警察に情報を提供している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在のところ、他のサービスの支援を必要とされる方がいないが、今後も柔軟に対応していきたい。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	今後、運営推進会議に参加していただけるよう働きかけをしていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、ご家族と相談し、適切な、希望する医療が受けられるよう支援している		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	日常は、かかりつけ医に診ていただいている。入居者の状態を理解されており、気軽に相談でき、よい関係が築けている。専門医受診の場合は、ご家族と相談のうえ受診できるよう支援している		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医での看護師が、入居者の状態を把握されているため、気軽に相談にのっていただけており、入居者とも馴染みになっているため安心感もある		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	かかりつけ医に入院している場合は、連携が密なため、病状により早期退院の支援ができています。他病院の場合は、ご家族と早期退院に向け情報交換し、連携を図っている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、ご家族、医療とその都度話し合い、職員も含め全員で方針を共有している		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人、ご家族の意向をくみ、医療とホームでの可能な限りの支援ができるよう、取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、ご家族、関係者らと情報交換し、混乱が最小限になるよう配慮している</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個別記録やケアプランなど、個人情報は他者の目に触れないよう保管。不必要な書類はシュレッダーにかけている。プライバシーを損ねないよう、声掛けには注意し、ミーティングなどでも、確認しあっている</p>		<p>親しみの中にも尊敬の気持ちを忘れないよう、言葉遣い、声掛けには注意するよう今後もミーティングなどを通じて確認していく</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の流れの中で、可能なかぎりの支援をおこなっている(帰宅願望の方や散歩希望の方との外出支援、行事での外食・出前時のメニュー決め、生活パターンの変化の対応など)</p>		<p>日々、自分の意向を職員に伝えやすいよう、職員の動きはゆったりとし、話しかけやすいよう配慮している。また、職員も入居者の言動に配慮するよう心がけている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>可能なかぎり、入居者の希望に合わせて支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人やご家族の希望に応じ、業者に来訪して頂いたり、職員が行ったりしている</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>現状の入居されている方々は食事を作ることは難しいが、盛り付け、食器洗い、食器拭きなど、職員と一緒にお手伝いしていただいている</p>		<p>本人の負担にならないよう様子をみながらお願いしている</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好みのものは、ご家族に協力していただき、自分で管理したり、ホームで預ったり、その時の状況に応じて支援している。タバコはホームで預かり、喫煙時は職員が付き添っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人のパターンや、その時の状態に応じて排泄介助を行っている。汚れて不快な時間が長くならないよう出来る限り支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の状況、状態に応じて、今までも試行錯誤しながら行っている。入居者のペースに合わせて臨機応変に対応している		昨年末からは、入浴日を決めたことで、入居者の混乱、拒否がなくなっている。今後も状況に応じた支援ができるよう見極めていきたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中、夜間を問わず、体調に負担がかからないよう様子を見ながら声掛けし、支援している。自由に休息や臥床、入眠ができるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意なお手伝いが行えるような支援、散歩・外気浴の支援、畑・花壇の作業など、楽しみながら行えるよう配慮している。毎月行事を行っているが、入居者が楽しめるよう個別に対応できる(特に外出レク)ものも考慮している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人、ご家族と相談し、本人の力に応じて支援している。買い物には同行し、出来る限り自由に買えるよう支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望に応じて散歩や外気浴を支援している。夏場はおやつの時間を利用し、天候の良い日は外で過ごすようにしている。ご家族と外出したり、行事で外にできるよう支援している		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族と外出、外泊にて希望の場所へ出掛けられている。外出レクでは、出来るだけ個別に好みのところへ行けるよう支援している		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望に応じて、支援している。		電話は、ご家族の負担にならないよう配慮をしながら、出来るだけ本人の希望に応じている。入居者と一緒に年賀状作りをし、ご家族に出している
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時にはお好きな場所で過ごしていただき、気軽に訪問していただけるよう配慮している		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	やむを得ず身体拘束を行う場合は、ご家族に説明のうえ同意書をかわし実施している。月に1度本人の状況を検討し、拘束の無いケアに向けて検討している		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自室の鍵は、本人の意思に任せ使用していただいている(マスターキーあり)。外玄関は、併設のデイサービスと共用で、踊り場より非常階段で2階の高齢者マンションにも通じるため、防犯上や安全面を考慮し、オートロックを使用している。内玄関は夜間のみ簡易錠を使用		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	食事、掃除、茶話会、入浴、トイレ誘導など、常に職員が入居者に係ることで、入居者がどのように過ごしていて、所在はどこかを把握し安全に配慮している。帰宅願望、外出願望のある方に関しては転倒なども含め、さらに注意をはらっている。夜間は定時の巡回を行っている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態に合わせた危険防止に取り組んでいる		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のため、入居者の状態に合わせて対応している。個人の状態に変化があった場合は、ご家族にも相談し対応策を検討、実行している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応と連絡方法をマニュアル化し、職員で確認している。同グループ系列のグループホームと定期的に研修会を行っている		今年度は、研修会で各ユニットで緊急時の対応に取り組み、発表している
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練は日中、夜間それぞれを想定し実施している。災害時等の地域の避難場所はホームの前の公園であることなど、運営推進会議を通じて確認している		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その都度、ご家族に相談し出来る限りの対応策を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所フキンは毎食後、用具は毎日漂白消毒を行っている。食材は、業者管理のもと、安全なものを搬入し、食材は必ず加熱処理をしている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>建物はレンガづくりで、デイサービス、高齢者マンションとの併設となっている大きめな外観のため、夏場は花壇をつくり、冬場は広く除雪を心がけている。また、誰でも休憩できるよう、通年ベンチを設置している</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間には、壁飾りや植物をおいたり、和風なつい立て間仕切りをするなどしている。台所、食堂、トイレは清潔に保つよう心がけている</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ひとりがけのイスを数か所に設置し、思い思いに過ごせるようにしている。ほとんどの方が、ダイルームの「自席」が落ち着くようで、自然と集まられている</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族とも相談し、出来るだけ使い慣れたものを持ってきていただいている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>汚物、生ゴミは、新聞紙にくるんでから袋に入れて、捨てている。換気、空調、温度管理は、入居者の様子をみながら、必要に応じおこなっている</p>		<p>冬季は空気が乾燥するため、ダイルームには濡らしたタオルケットを数枚干し、湿度を保つようにしている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)